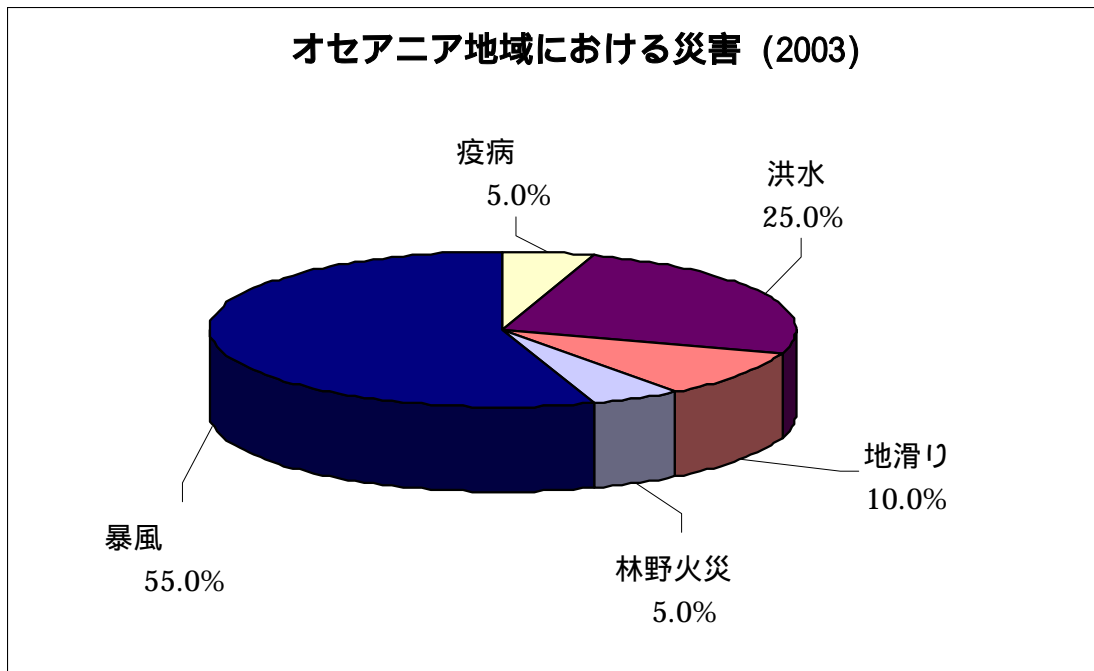


### 3.2.5 オセアニア地域の特徴

2003 年におけるオセアニアは、他の地域とは少し様相を異にした傾向を示している。さらに、2003 年に発生した自然災害は、オセアニアの通常の特徴とは異なる様相を呈した。この地域では、地震以外のほとんどすべての自然災害が発生しているが、その大部分は、暴風、洪水、地滑り、林野火災で、全体の 95%を占めている（図 43）。図 44 によれば、死者数のほとんどは、暴風（48%）、地滑り（28%）、洪水（15%）が原因となっている。これは、太平洋島嶼国（フィジー、米領サモア）で発生した暴風やパプアニューギニアで発生した地滑りが原因であると考えられる。図 45 は、2003 年におけるこの地域の被災者数の災害別内訳を表したもので、これによると、暴風、林野火災が被災者数の 96%を占めた。これまでとは異なるこの傾向は、フィジーとオーストラリアで発生した大暴風、オーストラリアで起こった林野火災、パプアニューギニアで発生した地滑りが原因となっている。さらに、図 46 によれば、経済被害のほとんどは、林野火災（50%）、暴風（28%）、洪水（22%）によるものであった。

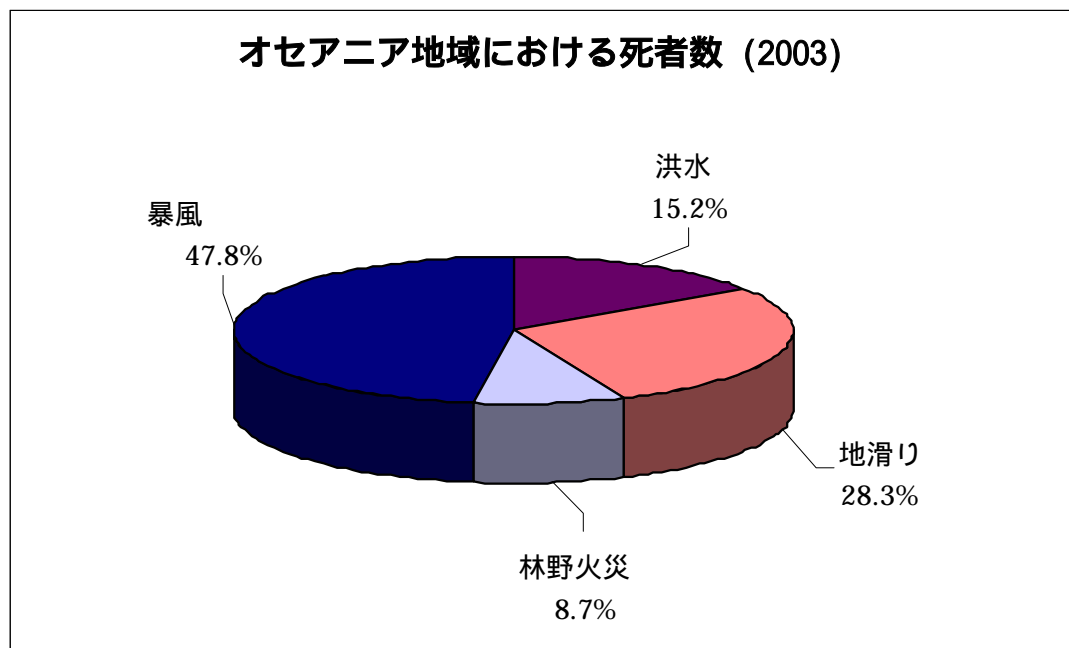
このような分析結果から、2003 年のオセアニア地域における災害の傾向は、その地理的条件による、気象災害が大部分を占めたと言える。

図 43



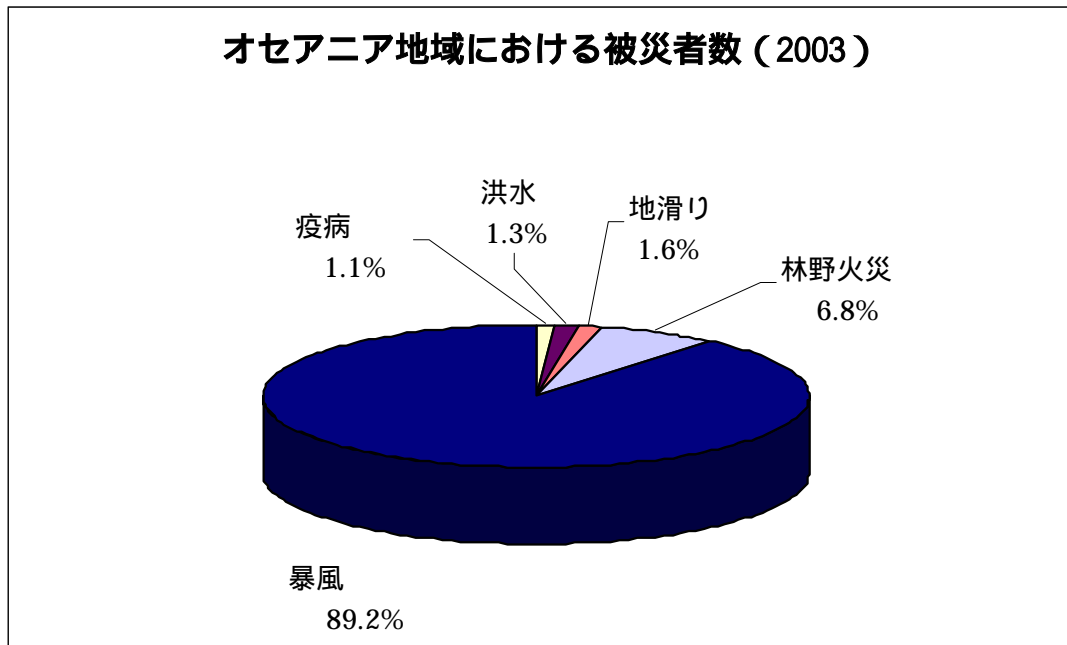
出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー） 2003年

図 44



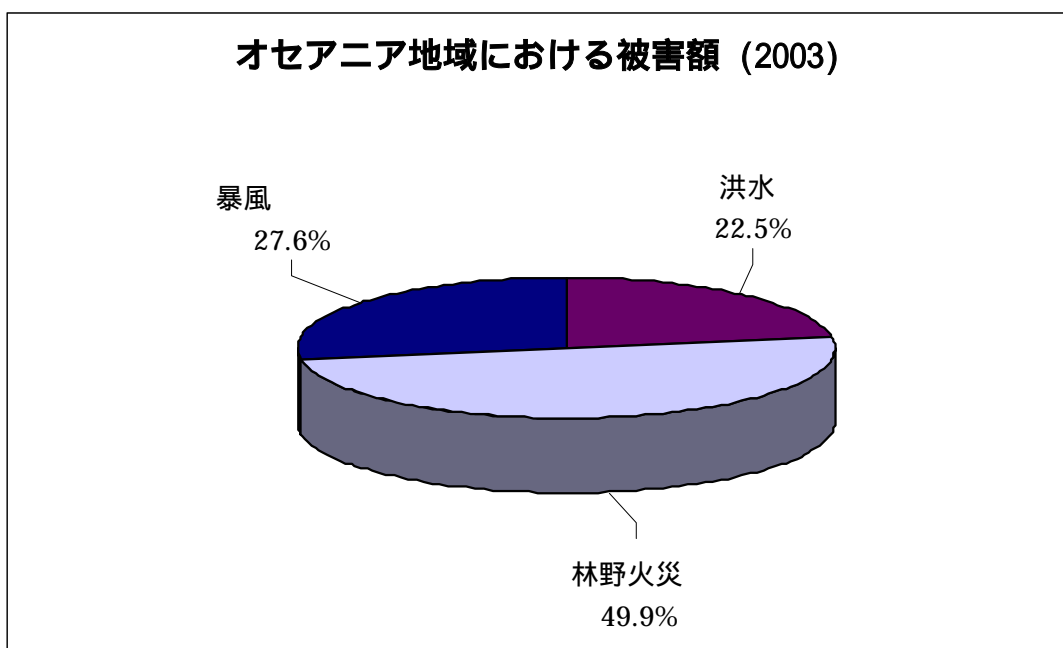
出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー） 2003年

図 45



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT (ルーベカトリック大学・ベルギー) 2003 年

図 46



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT (ルーベカトリック大学・ベルギー) 2003 年

このセクションでは、地域別にみた自然災害の概要を示した。ここで利用した統計は、第一章の表 2、3 に示した数値を集計して、図化したものである。2003 年の世界は、気象災害と地象災害から大きな影響を受けた年であったといえる一方で、オセアニア地域は、気象災害が突出した年となった。このセクションから明らかとなったことは、アジア地域が人的損失・被害に関して、自然災害による影響を大変受けやすい地域ということである。イランのバム地震、韓国の台風マエミ、中国、インド、スリランカ、バングラデシュで発生した洪水などから、アジア地域のこの傾向が裏付けられる。自然災害によって被災した人々の社会経済開発による便益が奪われ、ひいてはこの地域や全世界の持続可能な経済開発への取り組みが妨げられているのは明らかである。